2017. Vol.49 春号

アイ・シーたんなんだより
公立丹南病院

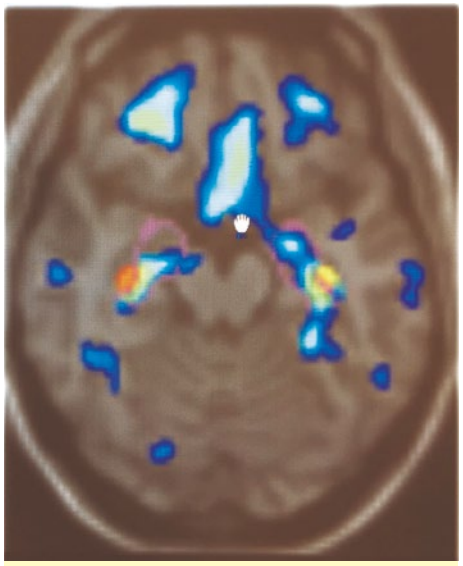
神経内科の紹介

公立丹南病院　神経内科 科長　熊野 貴規

当院の神経内科専門外来は、平成14年6月より常勤体制となり、現在まで熊野貴規（神経内科専門医・指導医）が診療を担当しております。平成23年5月13日、当院の一診療科として正式に標榜されました。診療時間は、毎週月、水、金の午後の週3日です。なお、平成28年4月より月曜日のみ福井大学病院神経内科からの協力医師との2診体制となっております。

ところで、神経内科とはどんな病気を扱う診療科でしょうか。一般の方にはまだまだなじみが薄いようで、精神科など、主に精神的な問題を扱う診療科と間違って受診されることがよくあります。神経内科は脳、脊髄、神経、筋肉に生じる病気を対象とします。症状としては、手足のしびれ、力が入りにくい、ふらつく、歩きにくい、しゃべりにくい、ものが二重にみえる、頭が痛い、手足が震える、けいれん、もの忘れ、意識障害、筋肉の萎縮など多彩です。

具体的な疾患名を挙げると、脳血管障害（脳梗塞）、感染症（脳炎、髄膜炎）、変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン病）、脱随疾患（多発性硬化症）、末梢神経障害（ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチー）、認知症（アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症）、頭痛（片頭痛、緊張型頭痛）など、中にはあまりなじみのない病気もあると思いますが、当科ではこれらの疾患に対応可能です。



アルツハイマー型認知症（海馬の萎縮：萎縮の強い部位が赤色で示されます）VSRADという解析方法で、脳の萎縮を客観的にみることができます。

神経内科診療で重要な事は、まず病歴を詳細に聴取する事です。的確な問診によって、神経疾患の8割は診断がつくとさえ言われます。問診後、神経学的診察によって、神経系のどこに病気があるのかを推定し、検査で確認するという流れになります。問診や神経学的診察には時間がかかりますが、この過程がおろそかにならないように心がけております。

最近診療を行う中で感じる事は、認知症の患者さんが急増している、という事です。ある認知症治療薬の使用量を調べてみると、ここ10年で10倍以上に増えていました。認知症の患者さんは今後もますます増えていくため、当科としても認知症診療を今まで以上に充実させていきたいと考えております。

神経内科の診察に用いる道具です。

透析看護認定看護師について

主任看護師 **藤野陽子**

当院の人工透析室は平成13年2月に開設されました。開設当初は15床でしたが新病院移転後は30床となり、広々とした治療環境で、透析治療を中心とした血液浄化療法を行っています。午前の部（8時30分～）と夜間の部（17時～）の治療体制のもと、現在は約60名の透析患者さんが通院されています。

人工透析室

私は平成15年入職時から人工透析室に在籍し、平成28年7月に透析看護認定看護師の資格を取得しました。患者さんが、安全で安楽な透析治療が受けられるように、日々透析治療中の看護実践に取り組んでいます。また、一人ひとりの患者さんの身体状態に合った、質の良い透析治療が受けられるように、医師・臨床工学技士・管理栄養士などの専門職と協働しながら透析治療業務を行っています。

毎週月曜日午後は腎臓内科専門医による腎臓外来を開設しています。腎臓外来では、腎不全を伴う糖尿病患者さんや腎臓病の患者さんが定期的に通院されています。腎不全の進行を少しでも抑えるには、内服治療や食事療法、日常の生活管理がとても大切になります。そのことから患者さん個々の状態を確認しながら、必要な情報や生活調整に対するアドバイスなどを伝えたりしています。

透析患者さんや家族は、長期にわたる療養生活の中、生活管理を行っていく辛さや様々な合併症の問題や不安を抱えます。透析治療と共にその人らしい生活が継続できるようにサポートをしていくことが透析室看護師の大きな役割になります。患者さん一人ひとりの生活や気持ちに寄り添いながら看護を実践していきたいと思っています。

また、腎不全患者さんに対する治療選択などのサポートについても力を注いでいきたいと考えています。そして丹南地域における基幹病院として、質の高い看護サービスの提供ができるよう努めながら、地域の透析施設との連携を高め腎不全看護の向上が図れるよう、日々努力していこうと思っています。

今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

透析中の患者さんへ個別に対応

地域医療連携室がリニューアル

地域医療連携室 ● 坪田喜久子室長

2016年9月より、既存の地域医療連携室に入院支援部門が加わって『地域包括医療推進部 地域医療連携室』となりました。他医療機関との連携を担当する前方支援、入院される患者さんの説明や情報収集・病床管理を行う入院支援、地域に帰られる患者さんを支える退院支援の3つの役割を担っています。

入院支援部門では、これまで外来の一部で予約入院される方への説明をしていましたが、連携室内にコーナーを設け、時間をかけゆっくりと説明をし、患者さんの不安の軽減に努めています。

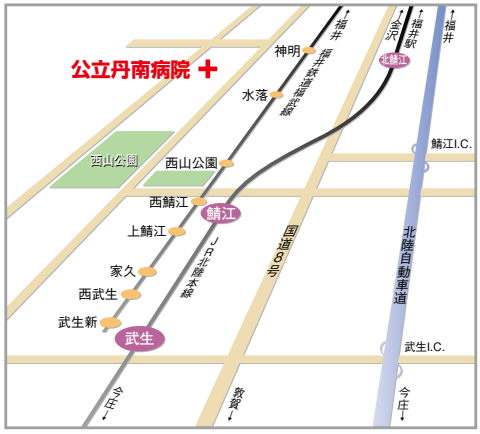
公立　丹南病院

〒916-8515　福井県鯖江市三六町１丁目2-31

公立 丹南病院
TEL:0778-51-2260　FAX:0778-52-8620
ホームページ:http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/tannan/html/
メールアドレス:tannan-info@jadecom.or.jp

公立丹南病院　在宅事業部

居宅介護支援事業所
訪問看護ステーション
〒916-8515　福井県鯖江市三六町１丁目2-31
TEL:0778-52-2050　FAX:0778-52-2151
メールアドレス:tannan-zaitaku@jadecom.or.jp

通所リハビリテーションセンター なごみの里
〒916-8515　福井県鯖江市三六町１丁目2-31
TEL:0778-51-5234　FAX:0778-51-8242
メールアドレス:tannan-nagomi@jadecom.or.jp

通所介護 よつばの里
〒916-8515　福井県鯖江市三六町１丁目2-31
TEL:0778-51-5411　FAX:0778-51-8242
メールアドレス:tannan-yotuba@jadecom.or.jp